

# 下水道事業会計

## 1 業務の実績

下水道事業会計の令和3年度における業務実績について、下水道の普及状況は、第1表のとおりである。前年度に比べ処理面積は微増、処理人口は微減となっている。総人口普及率は前年度と同じ99.8%、水洗化普及率（対処理人口）も前年度と同じ99.9%となっている。また、管路の総延長は8,309kmとなり、前年度より0.1%の微増であった。

**第1表 下水道普及状況**

項目	3年度	2年度	増減	増減率
処理面積 (ha)	24,796	24,790	6	0.0 %
処理人口 (人)	1,970,300	1,971,100	△ 800	0.0
総人口普及率 (%)	99.8	99.8	0.0	-
水洗化普及率 (%)	99.9	99.9	0.0	-
管路総延長 (km)	8,309	8,300	8	0.1

(注) 1 処理人口は、10月1日現在の数値である。  
2 管路総延長のkm未満は切捨てしている。増減は切捨て前の数値から算出している。

処理量の業務実績は、第2表のとおりである。前年度に比べ年間処理水量は3.0%の増加、年間有収水量は1.1%の増加となっている。

下水道使用料の対象となる有収水量の内訳をみると、家事用排水量と業務用排水量は、前年度と大きな変化はなく、最近5年間の推移では、家事用が増加傾向、業務用が減少傾向であり、特に令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、在宅需要の高まりや休業が影響しているためと考えられる。また、排水量の多い工事の影響から仮排水量は、前年度に比べ2,712.5%の増加、公衆浴場は、大口使用者廃業などの影響から8.7%の減少となった。

なお、1日当たり処理能力は前年度と同じ117万3千 $m^3$ である。

脱水汚泥量は20万2千tであり、その全てが西部及び東部のスラッジセンターで集中処理されている。

**第2表 処理量及び施設能力の業務実績**

(単位 千 $m^3$ )

項目	3年度	2年度	前年度比較		すう勢比率 (29年度 = 100)			
			増減	増減率	3年度	2年度	元年度	30年度
年間処理水量	321,562	312,312	9,249	3.0 %	92.4	89.7	91.8	101.0
1日当たり処理能力	1,173	1,173	0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0
年間有収水量	200,905	198,747	2,158	1.1	99.3	98.3	99.7	99.5
家事用排水量	151,896	151,984	△ 88	△ 0.1	105.4	105.5	100.4	99.7
業務用排水量	45,438	44,848	589	1.3	81.8	80.7	97.0	98.3
仮排水量	1,883	66	1,816	☆	313.0	11.1	184.7	193.7
公衆浴場	1,686	1,846	△ 159	△ 8.7	83.2	91.0	95.9	92.0
年間雨水処理量	69,853	58,560	11,293	19.3	76.2	63.9	69.2	89.8
脱水汚泥量 (千t)	202	207	△ 5	△ 2.5	94.1	96.4	99.2	100.3

(注) 千 $m^3$ 未満は切捨てしている。前年度比較は切捨て前の数値から算出している。